報道各位 プレスリリース

静嘉堂 SEIKADO BUNKO ART MUSEUM
静嘉堂@丸の内

2026年1月吉日

美を味わう ― 懐石のうつわと茶の湯

Where Beauty is Served:
Kaiseki Vessels and Spirit of Tea Ceremony

懐石とは、正式な茶会である茶事の中で、抹茶を喫する前に出される、もてなしの料理。その後に供される濃茶・薄茶をおいしく味わうため、空腹を和らげ、心身を整える食事です。一品ずつ出来立ての料理が運ばれる懐石では、料理にあわせて多種多様なうつわが使用され、客人の目を楽しませます。

本展では、静嘉堂所蔵の〝懐石のうつわ〟― 国内のものばかりでなく、諸外国から輸入された、バラエティ豊かなうつわを展示します。あわせて、懐石の後の茶席をイメージし、懐石の発展と広がりに貢献した千利休や、利休が仕えた豊臣秀吉ら、桃山時代の茶人や戦国大名ゆかりの茶道具の名品も展示します。茶事を演出するうつわの洗練された趣、デザインをお楽しみください。

【開催概要】

展覧会名	： 美を味わう ― 懐石のうつわと茶の湯
会　　期	： 2026年4月7日(火)～6月14日(日) **※前後期で一部作品の展示替えあり** 前期 2026年4月7日～5月6日(水･祝) 後期 5月8日(金)～6月14日(日)
会　　場	： 静嘉堂@丸の内(明治生命館 1 階) 〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-1-1 明治生命館 1 階
休 館 日	：毎週月曜日(ただし 5月4日(月･祝)は開館)、5月7日(木)
トークフリーデー	：毎週木曜日
開館時間	：午前 10 時～午後 5 時　※入館は閉館の 30 分前まで。 第4水曜日の4月22日(水)、5月27日(水)は午後8時まで、6月12日(金)、13日(土)は午後7時まで開館
入 館 料	：一般 1,500 円 大高生 1,000 円 中学生以下無料 障がい者手帳をお持ちの方700円(同伴者1名無料)
主　　催	：静嘉堂文庫美術館(公益財団法人 静嘉堂) ホームページ：https://www.seikado.or.jp X：@seikadomuseum ／ Instagram: @seikado_bunko_artmuseum

本展3つのみどころ

① “懐石”展、美術館開設以来の初企画！

② 懐石道具の華、向付のさまざまを味わう！

③ 千利休、秀吉ゆかりの茶道具名品、曜変天目も！

みどころ①

“懐石”展、当館開館以来の初企画！

静嘉堂において懐石のうつわを中心に取り上げる展示は、1992年の美術館開館以来初の企画です！
懐石では、陶磁器、漆器、ガラスなど様々な素材のうつわが、亭主心尽くしの料理をいっそう引き立てる役割を果たしています。とくに茶人に選ばれてきた陶磁器は多種多様！
日本のほか、中国、朝鮮半島やベトナム、オランダなど、各国各地の多様なうつわが集います。

広報画像1

《祥瑞松竹梅文袖形向付》

景徳鎮窯

明時代（17世紀前半）

高3.7㎝　口径16.0×9.5㎝

明末の染付の中で“祥瑞”に分類される、日本人注文の高級食器。黒漆塗の折敷の上に飯椀（左）、汁椀（右）、利休箸とともに。

広報画像2

《祥瑞山水花鳥文瓢形徳利 と 盃》

徳利：**景徳鎮窯**　明時代（17世紀前半）

高21.7㎝　口径2.7㎝　底径6.0㎝

茶懐石の酒器として人気の高い瓢形の徳利。表された詩句とモチーフには、茶人たち憧れの、中国の文人趣味が反映されている。
黒漆塗の丸盆の上に、茶葉末釉馬上盃（奥：景徳鎮窯）、青磁菊花文盃（左：龍泉窯）、御本手盃（右：釜山窯）を組み合わせて。

（参考図版）側面・底

広報画像3

《色絵丸文台鉢》

有田　江戸時代（17世紀）

高3.7㎝　口径23.0㎝　高台径11.1㎝

染付の鎖文で囲まれた各色の丸文が、大胆なトリミングで配された台鉢。縁に軽やかな歪みをつけた、古伊万里“古九谷様式”の逸品。

広報画像4

《白釉輪花透かし鉢》

野々村仁清

江戸時代（17世紀）

高8.9㎝　口径25.9～26.0㎝　高台径12.2㎝

花形の縁に、大きく透かしを切った仁清の鉢。白釉の流れを装飾に、料理を盛る窪みを作った秀逸なデザイン。

（参考図版）側面

広報画像5

《呉州赤絵魁字文鉢》

漳州窯

明時代（17世紀前半）

高7.6㎝　口径17.3㎝　底径6.0㎝

呉州（中国南方）産として名のある「呉州赤絵」の鉢。見込みには「魁」の一字。奔放な絵付が日本の茶人の目にとまり、懐石のうつわとして好まれた。

みどころ②

懐石道具の華、向付（むこうづけ）のさまざまを味わう！

向付は、懐石の最初に出される主菜または副菜を盛りつけるための小鉢や皿で、季節感や亭主の意図などを表現する重要な役割を果たします。様々な料理とうつわが出入りする懐石において、常に客人の前に置かれつづける向付は、手に取り顔に近づけて観賞することもできる特別なうつわです。
本展では、静嘉堂の所蔵する向付作品から、優品を幅広く展示します。

広報画像6

《向付 各種》
日本・中国・朝鮮・オランダ
17～19世紀

※一部作品は前期後期で展示替えとなります

広報画像7

《赤絵雉牡丹文向付》

景徳鎮窯

明時代（16～17世紀）

高2.9㎝　口径21.3㎝　底径13.9㎝

見込みの意匠は染付、外の丸窓には花鳥図。金彩を施す“金襴手”の作品とも通じる意匠。

広報画像8

《阿蘭陀藍絵花鳥文向付》

デルフト窯

オランダ（17世紀）

高7.0㎝　口径8.8㎝　底径6.1㎝

日本では「阿蘭陀」と呼ばれて珍重されたオランダ製の軟質陶器。乳白色に独特の青料で描かれる、ヨーロッパ的な雰囲気漂う花鳥の表現が見どころ。

広報画像9

《織部角繋ぎ向付》

美濃

桃山～江戸時代（17世紀前半）

高9.9㎝　口径7.3×10.1㎝　高台径5.4㎝

慶長～寛永年間にかけて美濃（現在の岐阜県）で焼かれた織部焼の向付。器形、緑と白の対比、抽象的な文様など、斬新な装飾が光る。

みどころ③

千利休、秀吉ゆかりの茶道具名品、曜変天目も！

正式な茶会である茶事では、懐石を終えると、中立を経て、濃茶と薄茶を喫する後座へ進みます。本展でも最後の一室は、懐石の後の茶席をイメージした展示となります。静嘉堂の茶道具コレクションから、懐石の広がりに貢献した千利休（1522～91）や、利休の仕えた豊臣秀吉（1537～98）ら、桃山時代の茶人や戦国大名ゆかりの名品を展示します。

広報画像10

《唐物茄子茶入 付藻茄子》［写真右］

高7.1㎝、口径2.7㎝、胴径7.4㎝、底径3.0㎝

《唐物茄子茶入 松本茄子（紹鷗茄子）》［写真左］

高6.4㎝、口径2.7㎝、胴径6.9㎝、底径2.7㎝

ともに　南宋～元時代（13～14世紀）

信長から秀吉、徳川家康と天下人の手中にあった茶入として著名な茶入。ともに大坂夏の陣で大破したものの、塗師・藤重父子の見事な修理を経て今日の姿に甦ったエピソードも知られる。

※前期に「付藻茄子」、後期に「松本茄子」が展示されます。

広報画像11

《黒楽茶碗　紙屋黒》

長次郎（樂家初代）

桃山時代（16世紀）

高7.2㎝　口径11.5㎝　高台径5.7㎝

千利休の創意をうけて、赤と黒の楽茶碗を作りだしたとされる樂家初代長次郎の作品。博多の豪商神屋宗湛が、豊臣秀吉への献茶に用いたともいわれる優品。

広報画像12

国宝 《曜変天目（稲葉天目）》

建窯　南宋時代（12～13世紀）

高7.2㎝　口径12.2㎝　高台径3.8㎝

「天目」と呼ばれる黒釉茶碗のうち、世界に3碗のみ完品が伝わる曜変天目。内面に浮かぶ大小の斑紋の周囲に、青く輝く光彩が現れている。本碗は、徳川将軍家から稲葉家（淀藩主）に伝来したのち、昭和9年（1934）に岩崎家の所有となった。

関連イベント

□ 講演会「豊臣兄弟と利休の茶会」

講師：田中仙堂氏（大日本茶道学会会長）
日時：5月16日（土）14:00～15:30
定員：200名
会場：明治安田ヴィレッジ「明治安田ホール丸の内」
（東京都千代田区丸の内2-1-1、明治安田生命ビル低層棟4階）
参加費：無料　※ただし、本展入館券込み参加券（1,500円）要予約
●要予約（詳細はホームページにてご案内します）

広報画像13

□ 担当学芸員によるスライドトーク

開催日：4/19㊐、4/28㊋、5/14㊍、5/31㊐
いずれも11:00～、14:30～（各回 約40分）
定　員：各回40名
会　場：明治安田ヴィレッジ「明治安田ギャラリー」
（東京都千代田区丸の内2-1-1、明治安田生命ビル1F）
●当日整理券配布・当日の入館券必要

明治安田CAFE丸の内
（明治生命館1F・南側）
とのコラボも予定！

明治生命館
MEIJI SEIMEI KAN

明治安田CAFE
丸の内

© Koji Fujii/TOREAL

【報道に関するお問い合わせは】
◆静嘉堂文庫美術館 広報事務局（共同 PR 内 担当：三井）
※在宅勤務等ありますので、メールでいただけると助かります。
E-mail：seikado-pr@kyodo-pr.co.jp / TEL. 03-6264-2382
〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア 10F
◆静嘉堂文庫美術館　E-mail：press@seikado.or.jp（広報担当：大森・河本）
展覧会担当学芸員：長谷川祥子（主任学芸員）

E-mail：seikado-pr@kyodo-pr.co.jp
静嘉堂文庫美術館 広報事務局行（共同PR内 担当：三井）

美を味わう ― 懐石のうつわと茶の湯
2026年4月7日（火）～6月14日（日）
静嘉堂文庫美術館（静嘉堂@丸の内）
【広報作品画像データ申請書】

展覧会の広報を目的として本申請書にてご申請いただいた記事・番組に限り、本展の広報用画像の使用が可能です。本展の会期中であっても別の記事・番組への転用はできませんので、その際には改めてご申請をお願いいたします。ご使用可能期間は本展会期終了までとなります。また、掲載に際しては、下記注意事項をご確認いただくとともに、本展終了後、データは速やかに破棄・削除してください。必要事項をご記入の上、E-mailでお申し込みください。E-mailでの送付が難しい場合、FAXでお申込みください（FAX:0120-653-545）

＜画像使用全般に関しての注意＞

●展覧会名、会期、会場名などの開催概要のほか、**指定表記、作家名、作品名、制作年、展示期間**を必ず掲載してください。**所蔵元（同一の場合）はまとめて1か所ご記載ください。**

●作品画像は全図で使用してください。原則として文字を重ねる、トリミングなど画像の加工・改変・部分での使用はできません（画像背景を削除するなどは可能です）。雑誌の表紙などへの使用をご希望の場合は広報事務局までお問い合わせください。

●概要など確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で広報事務局までお送りいただきますようお願いいたします。

●掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録DVDを本展広報事務局へ1部ご送付願います。

希望	NO.	指定表記・作者名・作品名	制作年代	所蔵元
	1	《祥瑞松竹梅文袖形向付》景徳鎮窯	明時代（17世紀前半）	静嘉堂文庫美術館蔵
	2	《祥瑞山水花鳥文瓢形徳利と盃》景徳鎮窯	明時代（17世紀前半）	静嘉堂文庫美術館蔵
	3	《色絵丸文台鉢》有田	江戸時代（17世紀）	静嘉堂文庫美術館蔵
	4	野々村仁清《白釉輪花透かし鉢》	江戸時代（17世紀）	静嘉堂文庫美術館蔵
	5	《呉州赤絵魁字文鉢》漳州窯	明時代（17世紀前半）	静嘉堂文庫美術館蔵
	6	《向付 各種》日本・中国・朝鮮・オランダ	17～19世紀	静嘉堂文庫美術館蔵
	7	《赤絵雉牡丹文向付》景徳鎮窯	明時代（16～17世紀）	静嘉堂文庫美術館蔵
	8	《阿蘭陀藍絵花鳥文向付》デルフト窯	オランダ（17世紀）	静嘉堂文庫美術館蔵
	9	《織部角繋ぎ向付》美濃	桃山～江戸時代（17世紀前半）	静嘉堂文庫美術館蔵
	10	《唐物茄子茶入 付藻茄子》[写真右]、《唐物茄子茶入 松本茄子（紹鷗茄子）》[写真左]	ともに南宋～元時代（13～14世紀）	静嘉堂文庫美術館蔵
	11	長次郎（樂家初代）《黒楽茶碗　紙屋黒》	桃山時代（16世紀後半）	静嘉堂文庫美術館蔵
	12	国宝《曜変天目（稲葉天目）》建窯	南宋時代（12～13世紀）	静嘉堂文庫美術館蔵
	13	ポスタービジュアル		

ご住所	〒	
社名/媒体名	社名	媒体名
ご所属/ご担当者名	ご所属	ご担当者名
TEL/FAX	TEL	FAX
E-mail		
掲載号／	月号（　　月　　日号）／　　月　　日発売予定　（発行部数　　部）　☐ WEBへの転載あり	
チケットプレゼント	☐読者プレゼントを希望する　※プレゼント内容・数量に関しては別途ご相談となります。 応募、当選者選定、発送は貴社でお願いできればと思います。編集部で対応できない場合は広報事務局までお問い合わせください。	
チケット送付先	※上記ご住所と異なる場合は記載をお願いします。	